

養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

食中毒にご用心!

《どうして食中毒になるの?》

食中毒とは、食中毒を起こすもととなる細菌やウイルスなどの有毒な物質が付着した食べ物を食べることで、下痢や腹痛、発熱、吐き気といった症状が出る病気のことです。



《こんなに多い、食中毒》

厚生労働省の統計によると2022年の食中毒発生件数は、2020年、2021年の減少傾向から一転増加し、過去5年間で三番目に多い962件となっています。

過去5年間の食中毒発生件数の平均991件よりも下回っていますが、より一層の注意が必要だと言えます。

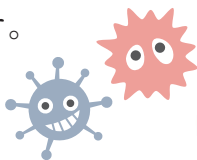


厚生労働省「過去の食中毒発生状況」2018年～2022年のデータを基に作成

町田予防衛生研究所HP (2015年) より

食中毒予防の3原則

「つけない」「ふやさない」「やっつける」
を守って、食中毒を予防しましょう!!



食中毒予防の3原則

つけない



ふやさない



やっつける



イラスト：健康ひょうご21県民運動HP (2015年) より引用

つけない

調理に従事している人の手指や調理器具を清潔に保つこと、食材に付着している菌を他の食材や器具に移さないことが重要です。調理前やトイレの後は必ずよく手を洗いましょう。調理器具等は用途別に使い分け、洗浄・消毒しましょう。

ふやさない

食品を保存する温度が高いと、食中毒を引き起こす細菌が急速に増えます。原材料も調理品も適切な温度で保管し、できるだけ早く食べましょう。冷蔵庫で保管する際は温度が低いほど菌の増殖が抑えられるため、冷蔵庫内の温度管理が必要となります。

やっつける

生の肉、魚介類等には食中毒を引き起こす細菌やウイルスがついていることがあります。加熱が必要な食品は中心部までしっかり加熱しましょう。中心部を75℃で1分以上加熱することが目安です。

撮影装置の更新について

撮影透視主任 里園 邦仁

昨年、放射線科では一般撮影装置のX線検出器を最新のFPD（フラットパネル デテクタ）に更新しました。一般撮影とはいわゆるレントゲン撮影のことで、人体にX線を照射し通過したX線を画像にする検査です。

フィルムからIP（イメージングプレート）、そしてFPDへと変わり、検査に必要なX線の量を飛躍的に少なくすることが可能となりました。また、画像もアナログか

らデジタルになり、撮影直後に画像を表示し適切な画像処理を行うことで、検査時間短縮や画質向上につながっています。

私たち放射線科では、検査時の被ばくを可能な限り低減し、最高の診療画像を提供できるように日々研鑽しています。



外来心臓リハビリテーション

運動療法主任 山田 竜一郎

本年度より、外来心臓リハビリテーションを開始しました。

心臓リハビリチームは、循環器内科・看護部・リハビリ科で構成され、特にリハビリ科のメンバーは循環器認定理学療法士・心臓リハビリテーション指導士・心不全療養指導士など心臓病関連の専門資格を持っています。

退院後の患者さんを中心に、心臓病の増悪による再入院を予防するため、運動療法や日常生活の指導、定期的なメディカルチェックなどを行っています。

今後より一層、質の高い包括的な心臓リハビリテーションを提供できるよう、スタッフ一同精進してまいります。



臨床検査の精度を保証するために

副臨床検査技師長 森 聖二

臨床検査における精度管理とは、分析結果の精度を高く維持することです。

「内部精度管理」と「外部精度管理」に大別され、「内部精度管理」で施設内の精密度を管理しながら、日本医師会や県医師会が行う「外部精度管理」調査に参加し、他医療機関の測定値と比較することで、自施設の検査値の信頼性を確認しています。

臨床検査科では、業務開始前や検査機器メンテナンス後に、「内部精度管理」業務を行っています。また、精度管理用の試料を1日複数回測定し、日内・日間の変動幅の管理を行っています。許容されている管理幅から逸脱した場合には、不具合等の原因を究明し、対策を講じることで、より高い精度の検査結果を提供しています。

「外部精度管理」については、近年、真の値に極力近い目標値設定のもとでの精度管理調査が行われ、各主催団体の「外部精度管理」評価を参考にし、必要に応じて原因追及または是正処置を講じています。



臨床検査科では、医師・医療スタッフの診療支援、地域の皆さんの健康維持に貢献するために、向上心をもって専門知識を習得することにより、疾患の診断・治療・予防等に役立つ高い精度の臨床検査データを提供してまいります。

薬学部5年生が実習中です

副薬剤部長 横田 千明

2006年4月から薬学教育6年制がスタートし、臨床での薬学教育の充実のために薬学部5年生での11週間の病院実務実習が必須となりました。

当院でも実務実習を受け入れ、今年度は長崎国際大学より5/22～8/6、8/21～11/5（予定）に各期間2名の学生が実習を行っています。

この実習を通して、調剤や注射薬の払い

出しだけでなく、病棟業務やチーム医療に直接関わることで、薬剤師の基本的な知識・思考・技能・業務態度を学んで貰いたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。



診療科紹介(脳神経内科)

脳神経内科医長 永石 彰子

本日は、脳神経内科のちょっと変わったご紹介。

研修医の頃私は、「神経内科は【解らない・治らない・諦めない】の【3ない科】」だと聞きました。診断が難しくよく解らない、診断がついても治らない、でも、諦めない。

あれから幾年、諦めなかった先人たちのおかげで新しい診断法が確立された病気があり、有効な治療法が見つかった病気があり。それでもなお克服できない病気が数多くありますが、やっぱり私たちは今日も諦めない。

脳卒中やパーキンソン病などのよく知られた病気から、聞いたこともないような難病まで、お役に立ちます

脳神経内科。

長崎全县、おとなり佐賀県からもたくさんの患者さんをご紹介いただいています。諦めの悪さが信条です。みなさん一緒にがんばりましょう。



病棟紹介(8病棟)

看護師長 額川 俊也

8病棟は、筋ジストロフィーや筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経筋難病疾患を持つ患者さんが療養を目的として入院している病棟です。患者さんの生活を支えるために、医師・看護師・療養介助専門員・療育指導員・保育士など多くのスタッフが協働しています。

新型コロナウイルス感染症流行前は、療育指導室と協力し花見や夏祭り、カラオケや手芸などのレクリエーションも積極的に行っていました。

コロナ禍においても様々な制限の元、スタッフ全員で「制限の中で何ができるか?」を話し合い、レクリエーションを継続してきました。

現在、新型コロナウイルスが5類感染症となりコロナ禍以前の活動に徐々に近づけることができないかと検討を行っています。

患者さんだけではなくご家族のご希望、ご要望も取り入れながらその人らしい療養生活が送れるようにスタッフ一同笑顔で患者さんの援助を行っていきたいと思います。



新型コロナウイルス流行前のレクリエーション(花見・夏祭り)

編集後記

総合情報管理室長 宮崎 哲彦

気温も高くなり、熱中症も心配な季節になりました。いよいよ本格的な夏の到来です。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類になり、早2ヶ月。社会ではかつての賑わいが戻りつつあり、以前のような“熱い夏”を楽しみにされている方も多いのではないかと存じます。しかしながら、医療機関は患者さんを守るためにも一定の感染対策を継続する必要がある、当院も状況を見ながら

引き続き感染対策を慎重に行っているところです。

皆さんにはご不便ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

医療従事者である我々にとっては、現在の状況を手放して喜ぶことはまだ難しいところですが、よりスムーズかつスピーディに社会や皆さんの生活がコロナ禍以前の状態に戻ることを祈念するばかりです。